

行財政改革推進会議における審議内容(概要)

諮問第8号 「少子社会における町の対応について」

開催日

第1回	令和5年 7月26日	諮問 事務局説明及び質疑応答
第2回	令和5年10月19日	事務局説明及び質疑応答
第3回	令和6年 3月18日	事務局説明、関係者からの意見聴取及び質疑応答
第4回	令和6年 6月20日	事務局説明及び質疑応答
第5回	令和6年 9月25日	答申案の検討及び取りまとめ
第6回	令和6年11月 6日	答申案の決定
第7回	令和6年12月19日	答申

会議の中でいただいた意見を以下のとおり項目ごとにまとめました。

○出会い・結婚

- ・町の多様なイベントを活用した、一人でも参加しやすい、出会いの場の創出
- ・マッチングアプリの活用
- ・マッチングアプリの安全性の担保
- ・奨学金返済に四苦八苦し、結婚することにも影響が出ている等の話も聞くことから、保育・介護・医療関係等の職を目指す学生に、将来、町内施設で勤めることを条件にした、学費補助制度はよいと思う。

○出産・子育て

- ・子どもを産み育てることについて「不安のない地域」であること（安心して出産できる優良産院の存在、乳幼児の育児相談体制の充実、高校卒業までの子育て期間に要する金銭的負担の極小化）
- ・子育てのための生活環境の整備（子どもの安全・医療環境・教育環境・生活・経済的安定、都市公園の整備・住環境）
- ・出産・子育て費用、収入面の不安の解消
- ・産婦人科医院の整備
- ・女性に対する精神的な支援
- ・ママ友の繋がりが心の迷いの解決に繋がることから、母親が集える場所を整備し、安心・安全に子育てできる環境を実現させる。
- ・病児保育施設、小児科医院の整備
- ・子どもが急に病気になった際に預けられる保育園などができれば、若い世代は安心して出産・子育て・仕事ができるのではないかな。

- ・放課後児童の預かり体制の整備
- ・伊奈町の母子愛育会の活動については、子育て支援策の一つとして、もっと町民へPRをした方がよいのでは。

○教育

- ・伊奈町には伊奈学園、国際学院高校、日本薬科大学があり、教育資源に恵まれており、また、ニューシャトルが通っており、通学圏はかなり広い。
- ・小中高一貫校があると面白い。
- ・転入を検討する者にとって、教育環境は重要であることから、ギフテッド教育など特色のある学校の招致や、町立の小・中学校で日本一、県内一と主張できるものがあると、町の教育環境として評価されると思う。
- ・伊奈町への移住を検討してもらうために、ある程度の教育レベルがないと移住を考えてもらえないことから、教育レベルを上げ、それを売りの一つとしては。
- ・伊奈町の教育環境で学んでいる児童・生徒は、例えば英会話能力など、特定分野に秀でているという実績を実現する策を講じ、教育レベルが高い、又は、特定分野を育む地域を実現させる。
- ・新庁舎に図書館を併設し、図書館に学習可能なスペースも確保できればよいのでは。

○住環境（自然・交通・まちづくり）

- ・伊奈町としての特色を出す方法として、多くの自然の中で、ゆったりと余裕をもって出産や子育てができる地域とPRできればよい。
- ・大宮に近く、自然環境も良く交通も便利であることを考えると、潜在的に伊奈町に住みたいニーズは多いと感じる。
- ・戸建てで緑のある所というのは、大事な一つの価値になってくると思う。
- ・伊奈町は自然環境が整っており、その中でよい教育が受けられることは重要である。
- ・伊奈町は自然が多く、都内や近郊の市町村から注目されていると感じている。
- ・都内等への通勤を想定した交通の利便性向上
- ・ニューシャトルが開通してから非常に便利になったが、運賃が高いため、町内在住の学生等に定期券の補助等の施策を打っては。
- ・上尾駅からバス利用で通学する伊奈学園生徒の利便性向上のため、「いなまる」の運行を検討してみてもは。
- ・シャトルの駅を中心として賑わいをもたらす、高架下を活用して賑わいを出すといった、一つのポリシーを持ったまちづくりが、これから意味を持つてくると思う。
- ・テーマを持ったまちづくりを進めてほしい。
- ・町内でも空き家となっている比較的大きな家がかなり目立つことから、子どもとの同居を前提としたリフォームを実施し、貸し出すような施策もよいのでは。
- ・遊休農地については、伊奈町の今後の人口増加、若い人の受け入れの一番のネックになっていると感じており、宅地化できれば多くの人が転入してくると思っている。

- ・住民の声を活かしたまちづくりの検討。

○地域コミュニティ

- ・行政は、区の実存についてどう捉えており、また、これからの方向性や施策を考えなくてはならない。
- ・子ども会は、一昔前まではとても盛んであったが、今は働く母親が役員を引き受けられない等もあり、子ども会がなくなってしまうようであることから、小学生が集まって伊奈町の魅力を持てる場が作れないか。

○町の魅力発信、その他

- ・伊奈町の売りは何かということを発掘して、町外へ発信して、外からの目線を引き付けるものとしていかないと人口は伸びていかず、伊奈町の魅力を前面に出すことが必要。
- ・伊奈町の売りをどのように見える化していくか。
- ・町内の要素だけではなく、シャトル沿線地域の要素を町に結び付けて、町の資源としてPRするような工夫をしてはどうか。
- ・伊奈町が実施している事業は、子育て世代の人の目には触れているのかも知れないが、それ以外の町民や町外の人目に触れてもらうといいと思い、広報や周知の方法が抜けていると感じた。
- ・伊奈氏屋敷跡は松平信綱が産まれたところでもあり、伊奈忠次が官制的な人物であるのに対し、松平信綱は島原の乱を鎮めるなど武将らしい活躍があることから、松平信綱をもっと検証して、町には優れた人材を育てる基盤があるといった売りも一つかと。
- ・町の優れているものをアピールするため、他の自治体と比較したときの指標があるとよい。
- ・各ライフステージにおいて、子どもと養育者の両者にどのような課題が生じており、それに対して町としてどうフォローできるかを考えなければならない。
- ・ライフステージに沿った施策を体系化した上で、足りないことや力を入れる施策を出していくことが課題。

これらの意見が委員から出され、これを集約したものとして答申を作成しました。